児童虐待は、家庭内における親などの養育者による身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、ネグレクトといった、「子どもに身体的、心理的な傷を繰り返し負わせる行為を総合的に」（庄司洋子、木下康仁、武川正吾、藤村正之編『福祉社会事典』弘文堂、1999年、395頁）指します。児童を虐待から守ることは世界的な課題であり、近年日本においても、問題の啓発活動や育児ホットラインなどの対策が進められていますが、「専門家の通告義務の強化、虐待する親から子どもを保護するための法的整備、児童相談所、病院、保健所、教育機関など専門諸機関の連携などが急務」（同上書、395頁）となっています。また、子ども関連の施設での不当な扱いや労働搾取なども、児童虐待の議論の対象とされています。

本書は児童虐待に関する研究を集めた包括的論文集です。第1巻「児童虐待を描写し理解する」、第2巻「児童虐待を予防する」、第3巻「児童虐待に対応する」の全3巻から構成されています。

本書を社会福祉・社会政策、児童福祉、児童虐待に関心を持つ研究者・研究室にお薦めいたします。

VOLUME ONE: Describing and Understanding Child Maltreatment
Perception and determination of child maltreatment: Exploratory comparisons across three countries.


**VOLUME TWO: Preventing Child Maltreatment**


44. Gambrill, Eileen. (2010). Evidence-informed practice: Antidote to propaganda in the helping professions?

**VOLUME THREE: Responding to Child Maltreatment**


58. Turnell, Andrew, Munro, Eileen, & Murphy, Terry. (2013). Soft is hardest: leading for learning in child protection services following a child fatality.